

日帰り可能 負担少ない「ヘルニコア」投与

椎間板ヘルニア注射で改善

日本人の8割以上が一度は経験するという腰痛。中でも腰椎椎間板ヘルニアは、急性の激しい痛みや足のしびれなどを引き起こし、日常生活に支障が出る。以前は安静にする保存療法か手術の選択がなかったが、2018年に注射薬「ヘルニコア」が登場し、少ない負担で症状が軽減できるとして治療を受ける患者が増えている。

(斉藤和音)

介護の仕事をしていた名古屋市中区の女性(40)は、23年



の9月ごろ、腰の痛みで足を引きずるようになった。夜中も痛みで熟睡できず、高齢者をベッドから移動させる仕事にも大きな影響が出た。医療法人偕行会・名古屋共立病院(同市中川区)を受診し、腰椎椎間板ヘルニアと診断された。手術も選択したが「1週間ほど仕事を休む必要があり、傷痕が残る」ため、ヘルニコアによる治療を選んだ。治療は日帰り、女性は注射後歩いて帰宅。翌日から痛



治療について説明する名古屋共立病院脊髄・脊髄外科センター長の湯川さん＝名古屋市中川区の同病院で

適用には条件 手術、安静以外の選択肢に

ことや急激な動作、体質などが原因となる。

飛び出た髄核はいずれ自然に吸収される。そのため、鎮痛剤やコルセットなどで安静にする保存療法で、患者の7、8割は症状が治まる。それでも改善しないときや、排尿排便障害などがある重症の場合は、手術で神経の圧迫を取り除くのが一般的だった。

ヘルニコアによる治療は保存療法と手術の中間に位置する。椎間板内に酵素を含んだ薬剤を注入して、薬の働きで髄核の保水成分を分解し、膨らみを小さくする。神経の圧迫が和らぎ、症状が改善する。投与の際は、医師がエックス線を確認しながら椎間板内に針を進める。

女性を治療した同病院脊髄・脊髄外科センター長の湯川泰紹さんは「局所麻酔ででき、針を刺している時間も数分ほど。手術に比べて患者さんの負担が少ない」と利点を挙げる。個人差はあるものの、数日から数週間で効果を感じ、ゆっくり改善してい

く。

同病院では、21年4月～25年9月の4年半で「保存療法では改善が難しい」とされた45人がヘルニコアの治療を受けた。8割の37人は症状が改善し、8人は痛みが残り手術に至った。

ただ、ヘルニコアの治療は、すべての患者が受けられるわけではない。腰椎椎間板ヘルニアは飛び出た髄核の状態によって4タイプに分かれる。このうち「後縦靱帯下脱出型」だけが適用となる。また、一度使うと体内に抗体ができるため、使用は生涯に一度だけと決められている。

治療できる医師も、日本脊椎脊髄病学会や日本脊髄外科学会の指導医などに限られる。現在、治療できるのは1200施設ほど。

湯川さんは「ヘルニアは安静にしても痛みを感じ、日常生活に大きく影響する。これまで手術をしないと改善が見込めなかった人にも、手術せずに治療できる選択肢が増えたことは大きな変化」と語る。